

西表島の海岸林における更新阻害について（第1報）

《 - 絶滅危惧種ヤエヤマネムノキを例として - 》

1 はじめに

日本海側各地の海岸で、外国から大量に漂着するごみ問題が深刻化しており、八重山諸島の離島でも漂着ゴミが多量に見られます。西表島の漂着ゴミの様子については、昨年秋NHK総合のクローズアップ現代にも取り上げられたところです。

漂着ゴミに関しては、様々な課題が山積しています。

例えば、1)発生域と被害域（漂着域）が異なり、国際的な問題であること、2)適切な回収、処分・処理技術が開発されていないこと、3)被害地の多くが離島や過疎地であり、自治体の財政負担が重いこと、4)目に見えるような国民的被害として認識されていないこと、5)対策の効果の検証方法が確立していないこと、などです。

2 調査の目的等

西表島でもマングローブ林内に、沢山の漂着ゴミが見られますが、マングローブにどのような被害が出ているのか、なかなか実感できません。

そこで、西表森林環境保全ふれあいセンターでは、漂着ゴミによる影響について、国民的被害として認識を深めて頂くため、絶滅危惧I B類のヤエヤマネムノキにおける繁殖への影響を切り口として、調査を行っています。

具体的には、西表島の中で最も大量の漂着ゴミが見られる、西表島北岸に位置するユツンのヤエヤマネムノキ生育箇所周辺に調査区(10×20m)を設定しました。



3 調査内容等

昨年夏に設定した調査区において、今回、漂着ゴミの分量と下層植生調査を一部行いましたので、その様子、概要を報告します。

調査区(10×20m)内に、漂着ゴミを調査区外に持ち出し、林床に漂着物の堆積が無い状態のコドラート(2×2m)と、林床に漂着物が堆積したままのコドラート(2×2m)の設置を交互に進めています。

林床に漂着物の堆積が無い状態のコドラートについては、継続的に漂着物が堆積しないよう



囲いを行う予定にしています。

この二種類のコドラートについて、ヤエヤマネムノキの実生個体の発生状況を継続的に調査することによって、具体的な漂着ゴミによる影響を明らかにしようとするものです。



4 漂着ゴミの分量、植生調査

右の写真は、3つのコドラート（合計12㎡）に堆積していた漂着ゴミの量です。

今回調査した5つのコドラート内には、草本層に、20～40cm程のアカテツ、モモタマナ、アダン等が発見されましたが、ヤエヤマネムノキの稚樹、低木については、いずれのコドラート内にも発見できませんでした。



（参考）

*ヤエヤマネムノキの分布、生態等（山と溪谷社：レッドデータプランツより）

- ・ マメ科ネムノキ属、国レベルの絶滅リスクランク：絶滅危惧ⅠB類。
- ・ 熱帯と亜熱帯の海岸林に生える落葉高木。
- ・ 沖縄本島と八重山諸島に点々と産し、タイからオーストラリアにかけて広く分布する。
- ・ もともと自生地が限られ、海岸林の開発で自生地が減少している。
- ・ 葉は2回偶数羽状複葉、長さ20～30cm、羽片は4～6対。羽片には4～8対の小葉が対生する。
- ・ 材はかたく、緻密で重く、建築材に使われる。